山梨県埋蔵文化財センター調査報告　第49集

鍋　弦　塚
NABE　DURU　DUKA

東山南遺跡
HIGASIYAMAMINAMI　SITE

1989.3

山梨県教育委員会

鍋　弦　塚
NABE　DURU　DUKA

東山南遺跡
HIGASIYAMAMINAMI SITE

1989. 3.

序

本報告書は、1988年度に実施した甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園敷地内の鍋弦塚及び東山南遺跡の調査の結果をまとめたものであります。調査の目的は、公園整備に先立って遺跡の状態を把握するための遺構確認調査であります。

鍋弦塚は1907（明治40）年に地元民によって発掘され、陶器製の壺と人骨などが出土しております。この経過については塚の上に建てられた『東山の碑』によって、今日に伝えられておりますが、今回の発掘調査では新たな遺物を発見することはできませんでした。しかし、人工的な盛り土の状態が観察されたことから、鍋弦塚は中世の蔵骨器を埋納した墳墓であることが明らかとなりました。遺跡の立地する平坦な段丘面には、縄文時代・弥生時代・古墳時代の土器や石器がわずかに散布していたので、ここも調査をいたしましたが、遺構は確認されませんでした。

東山南遺跡は1981年に遺跡の主要部分が発掘調査され、古墳や方形周溝墓などが発見されておりますが、今回は遺跡の西側に公園整備のための道路と駐車場が建設されるため、事前に遺跡の確認調査を実施したものです。この結果、遺構と考えられるものは、全く発見されませんでした。

末筆ではありますが、発掘調査に参加された方々をはじめ、お世話になった方々に深甚の謝意を表します。

1989年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　磯　貝　正　義

例　　言

1. 本報告書は、山梨県東八代郡中道町下向山字東山所在の鍋弦塚及び東山南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告書は末木　健が執筆・編集、遺構・遺物写真撮影をおこなった。
3. 整理参加者は、弦間千鶴、内藤真知子、後藤良美である。

目　　次

第Ⅰ章　鍋弦塚 …… 1
第1節　地理的・歴史的環境 …… 1
1. 地理的環境 …… 1
2. 歴史的環境 …… 2
第2節　発掘調査経過 …… 3
1. 調査日程 …… 3
2. 調査組織 …… 3
3. 調査方法 …… 3
第3節　遺跡の概要 …… 4
1. 遺　構 …… 4
2. トレンチ調査 …… 7
3. 出土遺物 …… 7
第4節　まとめ …… 14

第Ⅱ章　東山南遺跡 …… 16
第1節　地理的・歴史的環境 …… 16
第2節　発掘調査経過 …… 16
第3節　遺跡の概要 …… 16
第4節　まとめ …… 16

第Ⅲ章　結　語 …… 18

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図…… 1
第２図　調査地区全体図…… 4
第３図　鍋弦塚地形図……5～6
第４図　墳丘表土除去後地形図…… 7
第５図　遺物及び礫出土図…… 8
第６図　鍋弦塚出土遺物…… 9
第７図　鍋弦塚１号トレンチ出土遺物… 10
第８図　鍋弦塚２号トレンチ出土遺物… 11
第９図　鍋弦塚及びトレンチ出土遺物… 12
第10図　縄文時代石器…… 13
第11図　明治40年出土遺物…… 15
第12図　東山南遺跡調査区全体図…… 17

図　版　目　次

図版１　鍋弦塚発掘調査前・鍋弦塚調査風景・鍋弦塚墳丘上の石碑
図版２　鍋弦塚表土除去状態・鍋弦塚墳丘上土坑
図版３　鍋弦塚西側トレンチ・土坑
図版４　鍋弦塚トレンチ設定状況・同１号トレンチ・同２号トレンチ
図版５　鍋弦塚３号トレンチ調査状況・同３号トレンチ・同集石遺構
図版６　東山南遺跡調査風景
図版７　鍋弦塚出土遺物・２号トレンチ出土遺物・石器
図版８　蔵骨器の入骨・明治40年出土常滑製蔵骨器

第Ⅰ章　鍋　弦　塚

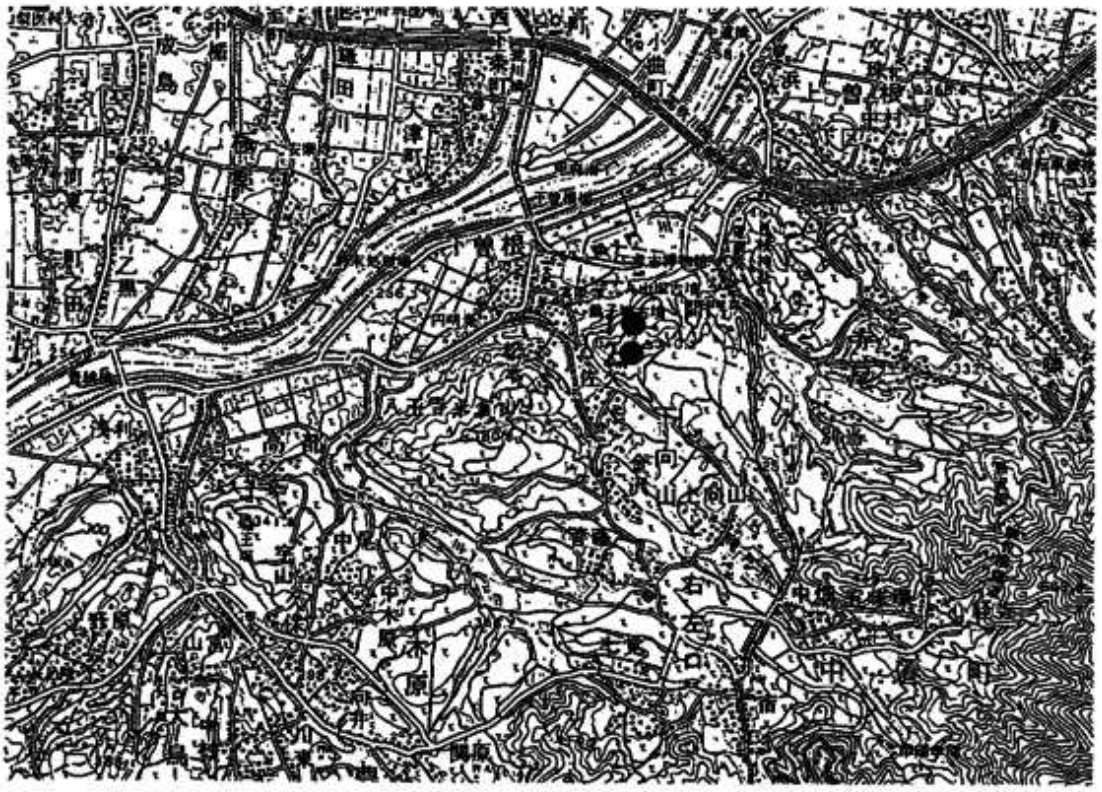
第1節　地理的・歴史的環境

1.　地理的環境

鍋弦塚は中央線甲府駅より南へ直線で約8.5kmの、東八代郡中道町下向山字東山1447－1番地にある。現在『山梨県甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園』として、県が整備を進めている公園用地内に在り、現況は山林及び雑種地である。

本遺跡の立地する曽根丘陵は、甲府盆地の南西側にあり、標高350～400m前後の平坦な丘陵が列をなしているところから、曽根丘陵列とも呼ばれる。丘陵の南から東にかけては御坂山脈が屏風のようにそびえており、北側には標高250～300mの甲府盆地が広がっている。丘陵の北側に沿って、富士川の支流の笛吹川が流れているが、現在は周辺の農地や宅地よりも河床が高く天井川となっている。古代には丘陵の末端から甲府盆地東側を自由に流れたものであろう。笛吹川と曽根丘陵に挟まれた平坦地は、現在水田や畠になっているが、湿度が高く湿地帯のような状態であったと言う。

鍋弦塚は曽根丘陵の東山台地の先端から一段下がった、標高315mのテラスに位置し、小さな馬の背状の丘の東端に造られている。北側の斜面はそのまま傾斜して、銚子塚古墳・丸山塚古墳のある平坦面に達している。



第1図　遺跡位置図＜1／25000＞（1.鍋弦塚　2.東山南遺跡）

2. 歴史的環境

本地域は甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園として40.4 haの地域が区域設定されているように、古代からの遺跡の宝庫であり、先土器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代の多くの遺跡が密集している。東山の平担部は120基以上もの方形周溝墓が発見された上の平遺跡を始め、同じ場所の先土器時代～縄文時代中期の集落跡、弥生時代の東山北遺跡、立石遺跡、古墳時代中頃の東山南遺跡が隙間なく並んでいる。更に、古墳時代の墳墓では、東山の北に並んで造られている国指定史跡の銚子塚古墳附丸山塚古墳を始め、東山先端の中腹の丘の上に造られた、二重石室で有名な大丸山古墳、銚子塚の東にある5世紀後半の馬具が出土したカンカン塚古墳（茶塚）、横穴式石室をもつ博物館構内古墳、東山上の稲荷塚古墳など、本県の最も古い古墳などが集中している地域である。それゆえ、巨大古墳が築造された4世紀には、畿内政権と強い結び付きをもった甲斐国内の最有力豪族が、近辺に居住していたと推定されている。

4世紀にその勢力を誇った当地域の有力豪族は、やがて八代町・御坂町や櫛形町地域に勢力を伸展させて行ったか、あるいはそれらの地域の豪族と連合政権をつくり、甲府盆地全体へと勢力を広めたものであろう。御坂町にある姥塚古墳や甲府市湯村の加牟那塚古墳などは、横穴式石室が長さ16m～17mの規模をもち、6世紀後半以降の甲斐国造居住地と目されているし、同時期には県下各地に横穴式石室をもつ大小の古墳が築造されている。本地域でも古墳築造は継続されており、横穴式石室の古墳は点々と見られるが、正式な発掘調査が行われた事がなく、1986年度に山梨県埋蔵文化財センターが実施した考古博物館構内古墳と、1987年度に発掘した稲荷塚古墳のみである。なお、考古博物館構内古墳は調査者によって、出土品から6世紀前半代に位置付けられている。この古墳からは、直刀、鉄鏃、甲冑、馬具、金環、玉、須恵器、土師器などが出土している。特筆すべきものとしては、稲荷塚古墳の横穴式石室から銀象嵌装飾付円頭大刀や銅鋺などが出土しており、6世紀末～7世紀初頭にかけての本地域の政治的・経済的力量を示すものとして注目されている。奈良・平安時代のこの地域は、古文書等で明らかになっている事が少ないが、平安時代の地名をあげた『和名抄』を見ると、八代郡白井郷あるいは沼尾郷の一部に含まれると推定される。

本遺跡は、明治40年に地元民が開墾をして、陶器製の壺を発掘したために明らかとなった。遺跡墳丘上には、当時の経過を記した『東山の碑』が建てられている。碑文には壺について、「中に人骨あり、朱を以て之を包む」とある。更に、碑文では、この墳墓は「曽根禅師厳尊の墓」であろうと推定している。甲斐国志によれば、曽根禅師厳尊は武田氏の子孫で生没年代は定かではないが、大系図には浅利義成の次に列せられているという。国志の人物部にある曽根氏の中で、蔵骨器の年代と最も近いのは、甲府の一蓮寺過去帳に「文明十四年（1473）四月十一日乗阿（曽根弥五郎）」とあるものが対応しようか。東鑑に「建久六年（1195）の曽根禰太郎」なるものの名がみえ、日蓮年譜には弘安五年（1282）曽根禰次郎などの名前が見える。曽根氏の墳墓かどうか明らかでないが、鍋弦塚は中世墳墓であることは疑い無く、しかも地元有力者の墳墓の可能性が高いものである。

第２節　発掘調査経過

1. 調査日程

1988.　8. 11　教文第８－17号で発掘通知を提出。
　　8. 23　重機により藪の伐開を行う。
　　8. 24　発掘調査開始。伐採・清掃作業。
　　8. 30　墳丘測量開始。
　　8. 31　測量完了。
　　9.　2　碑の移転。
　　9. 14　写真撮影。墳丘の表土除去後の測量。
　　9. 16　墳丘掘り下げ。
　　10.　3　全体清掃。写真撮影。
　　10.　4　東側平坦面にトレンチを設定。
　　10. 21　作業終了。

2. 調査組織

発掘調査担当者　末木　健　山梨県埋蔵文化財センター副主査・文化財主事
調査補佐　八巻与志夫・長沢宏昌・高野玄明　山梨県埋蔵文化財センター
作業員　長田可祝・梅林はなの・長田久江・出月遊亀子・長田久美子・石原はつ子・宇野文子・田中弘子・斉藤百代・中沢典子・中沢美智子・小林敬子米山とくの・弦間千鶴・柏木まつ江・岩沢千津子・岩沢美奈子

3. 調査方法

調査地域は雑木林及び桑畑であるが、耕作が放棄されてから数年が経過し荒れており、藪になっていた。このため墳丘測量、発掘調査前の写真撮影が困難であったので、これを一部伐採・下刈りをした。墳丘測量は東山にある三角点340.2ｍを基準にして、25cmの等高線を使い地形図を作成した。

発掘調査区の設定は鍋弦塚墳丘上中央に、中心点を設定し、中心線上とこれと直交するラインに墳丘の規模を知るためのトレンチを設定した。

テラス部分の調査はトレンチによる調査を実施することにした。トレンチは東西１本、南北２本の合計３本を設定した。１号トレンチは幅２ｍ、長さ20ｍ、２号トレンチは幅２ｍ、長さ25ｍ、３号トレンチは幅1.5ｍ、長さ15ｍである。これらのトレンチは遺構確認を行うためのものである。

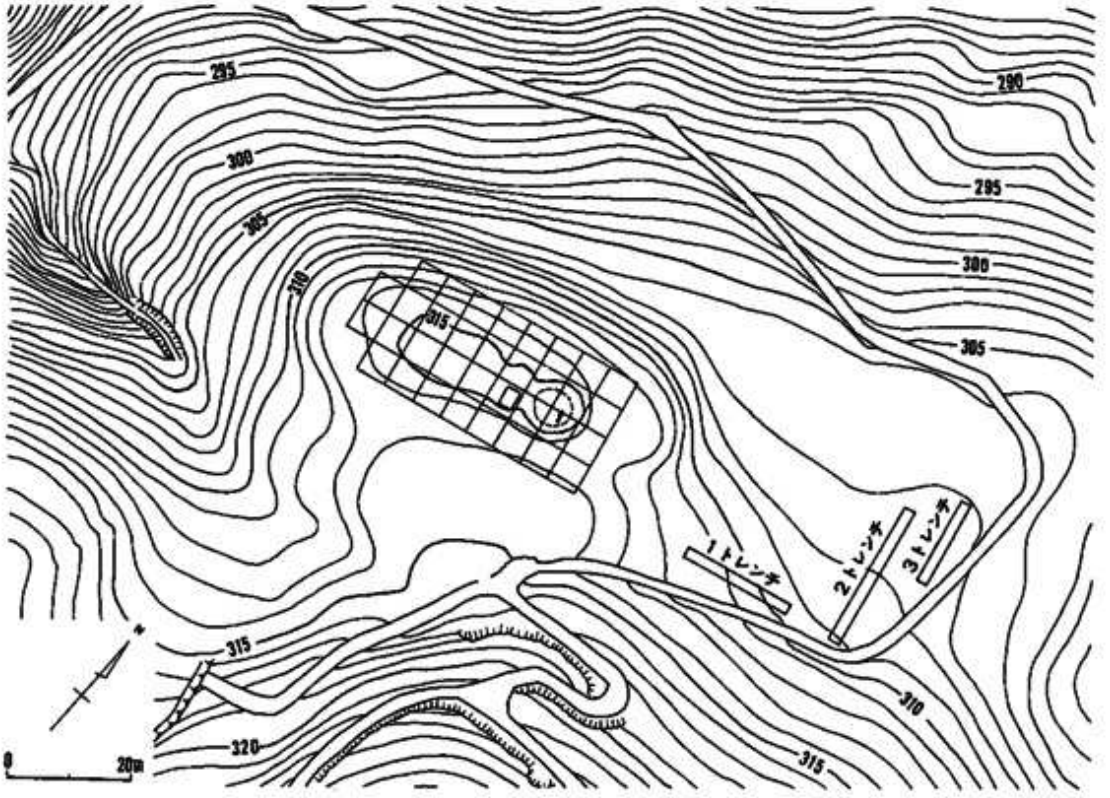
第３節　遺跡の概要

1. 遺　構

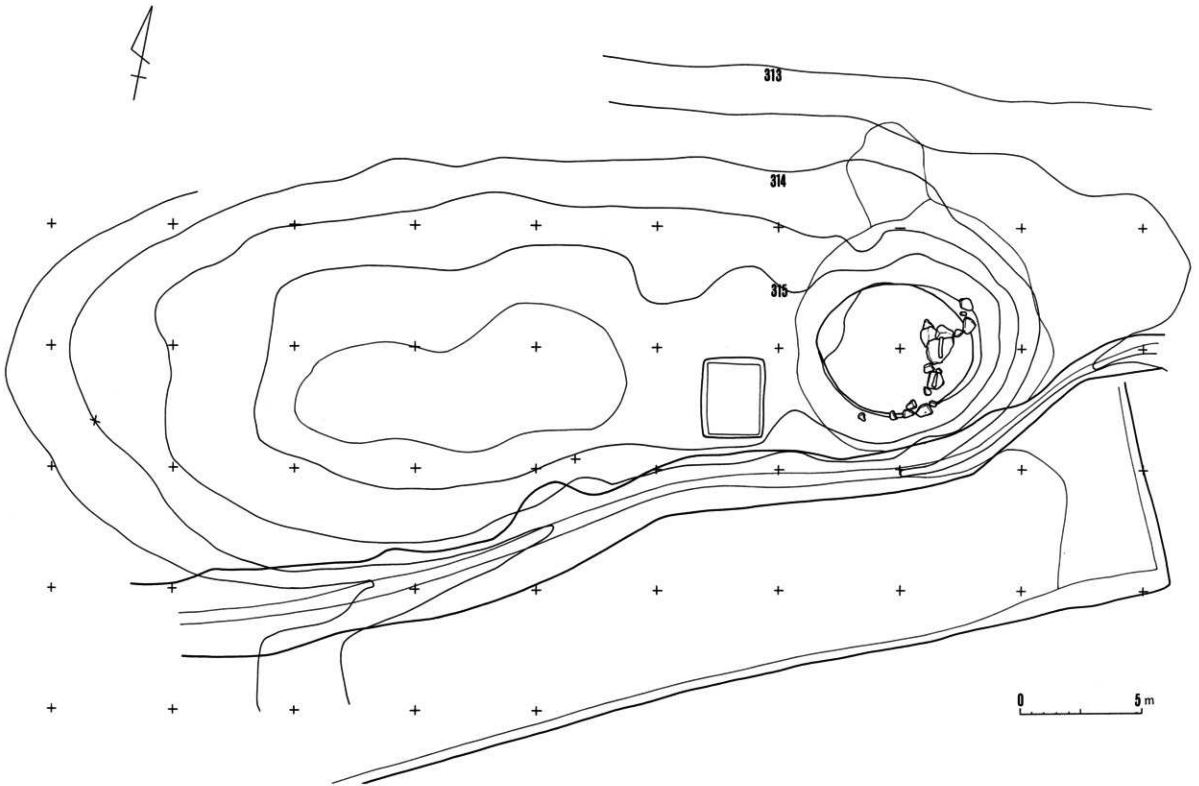
鍋弦塚の形態は直径10ｍの円形の墳丘をしており、墳頂は平担で墳丘斜面の形状はほぼ直線的である。墳丘の高さは東側で1.6ｍ、西側20～30cm、南側では溝の底まで1.6ｍ、北側では1.8ｍである。墳丘上には碑が２基建てられ、東側がやや高く、西側に緩やかに傾斜している。墳頂部の規模は、南北の直径5.5ｍ、東西直径6.5ｍの楕円形を呈している。平担面の一部の縁には礫が並べられているが、これらの礫は地中に埋設されたものではなく、置かれた状態であった。南東部の墳丘中段には葺石状の礫が20個ぐらい等高線に沿って設置されていた。このような葺石が全周していたかどうかは、そのほかの地点からは検出されていないので不明である。

墳丘の盛り土状態を調べるために、十字にセクション用トレンチを設定し、地山まで断ち割った。この結果、盛り土は20～30cm程で、褐色土と黄褐色土が交じりあった締まりの良い土である。この下は、旧地表土で、20～30cmの厚さがあり、暗褐色のきめ細かい土である。この中から古墳時代前期の土師器が若干出土している。地山は礫を含む黄褐色土である。

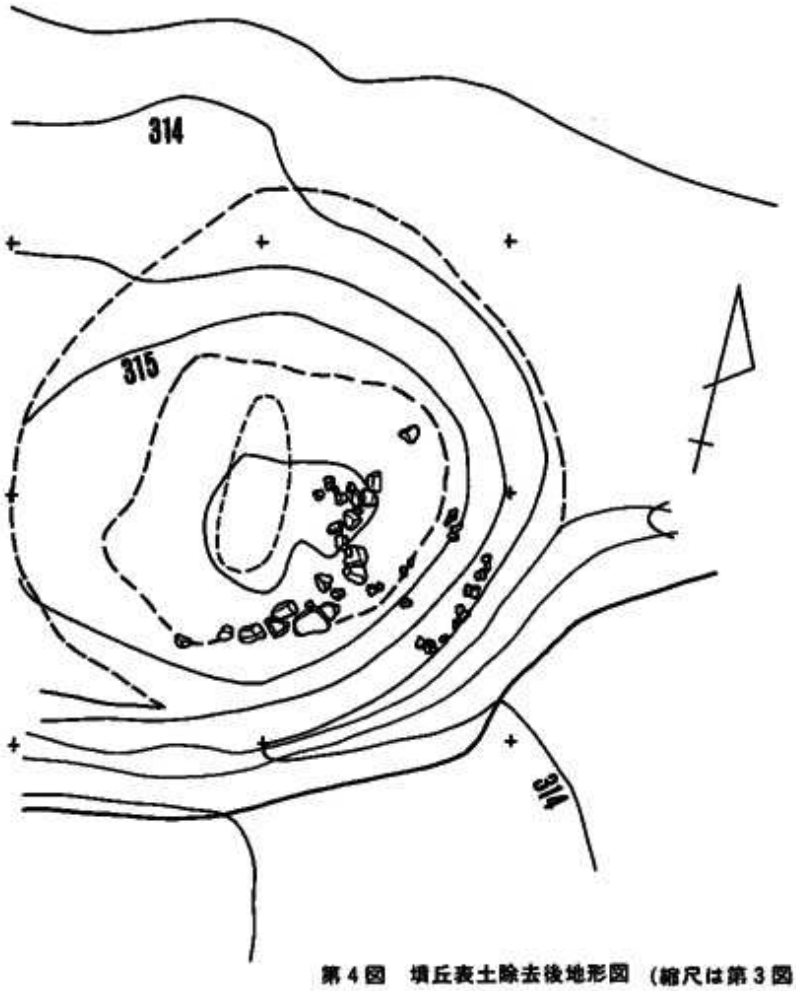
墳丘中央部にはロート状のピットがある。直径1.1ｍ、深さ60cmで、内部から遺物は出土していない。このほかに遺構らしいものはないので、明治40年に壺が発見された場所は、この場所の可能性が高い。



第２図　調査地区全体図



第3図　鎌筏塚地形図



第４図　墳丘表土除去後地形図（縮尺は第３図と同じ）

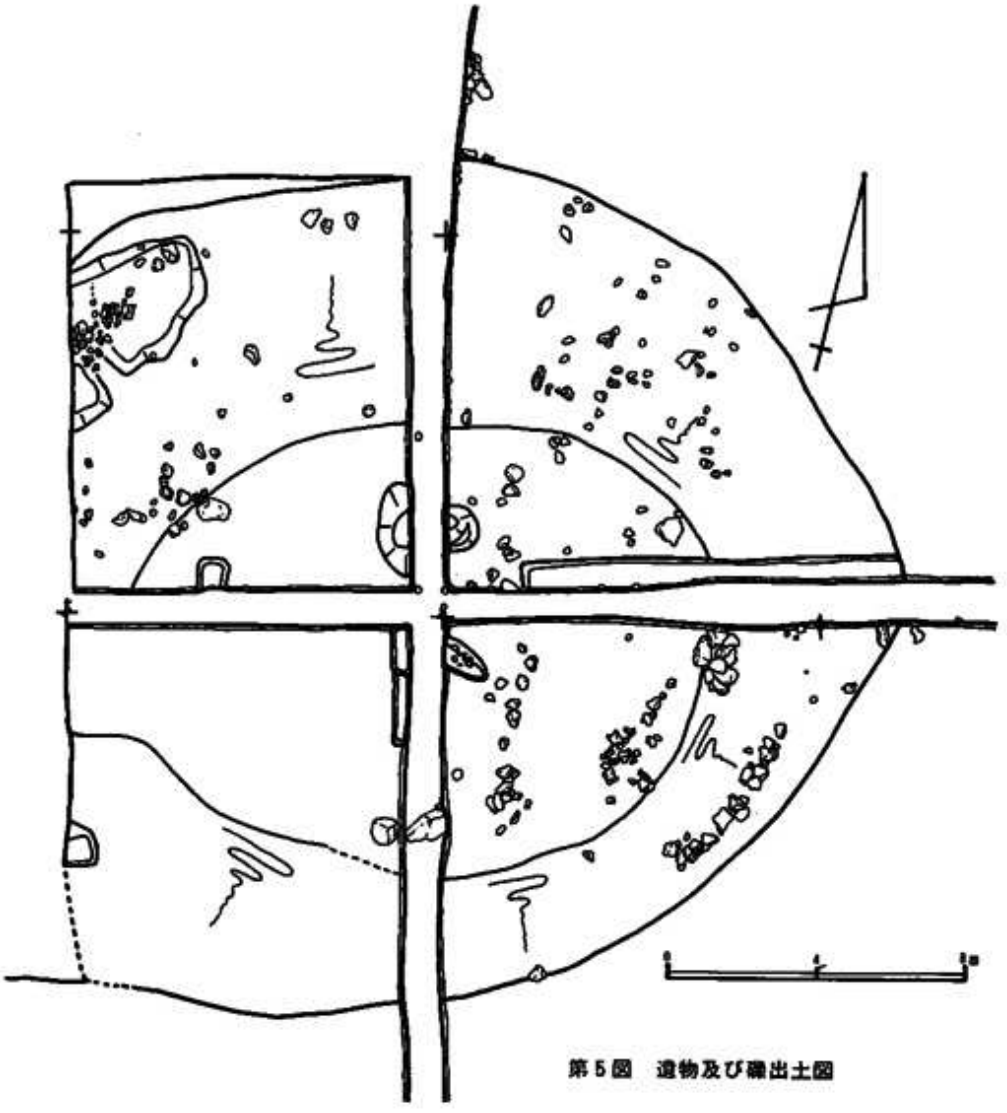
2.　トレンチ調査

墳丘以外の地域について、３本のトレンチを設定して、遺構の確認調査を実施したが、ここからは住居址などの遺構は検出されなかったが、一部から集石遺構も検出されている。しかし、遺物は伴っていないので、時期判定はできない。

3.　出土遺物

(1)　出土状態

鍋弦塚に確実に伴う遺物は明らかではない。かつて発見された常滑製の壺が唯一の遺物とも言える。今回発掘した墳丘区域からは、若干の遺物が検出されている。出土地点は３カ所に分かれているが、このうちの１カ所は墳丘盛り土の下の旧表土中に含まれていたものであり、墳丘の築造年代を決定するものではない。墳丘北側の裾部分より礫に混じって土師質土器の破片がかたまって出土している。ここの土質は軟らかく礫などの状態からも比較的新しい時期の遺物か、あるいは新しい時期に撹乱を受けたものという可能性がある。また、墳丘北西部には浅いピットがあり、この中からも土師質土器が出土している。ここからも礫が出土しているが、この地層は比較的締まりがあり、墳丘築造時の遺物の可能性もあるが、近辺の表土剥ぎの最中



第5図　遺物及び礫出土図

に五輪塔の空風輪や地輪が出土しており、五輪塔にかかわる遺物の可能性もある。したがって、これらが、墳丘築造時にかかわるものか即決はできない。

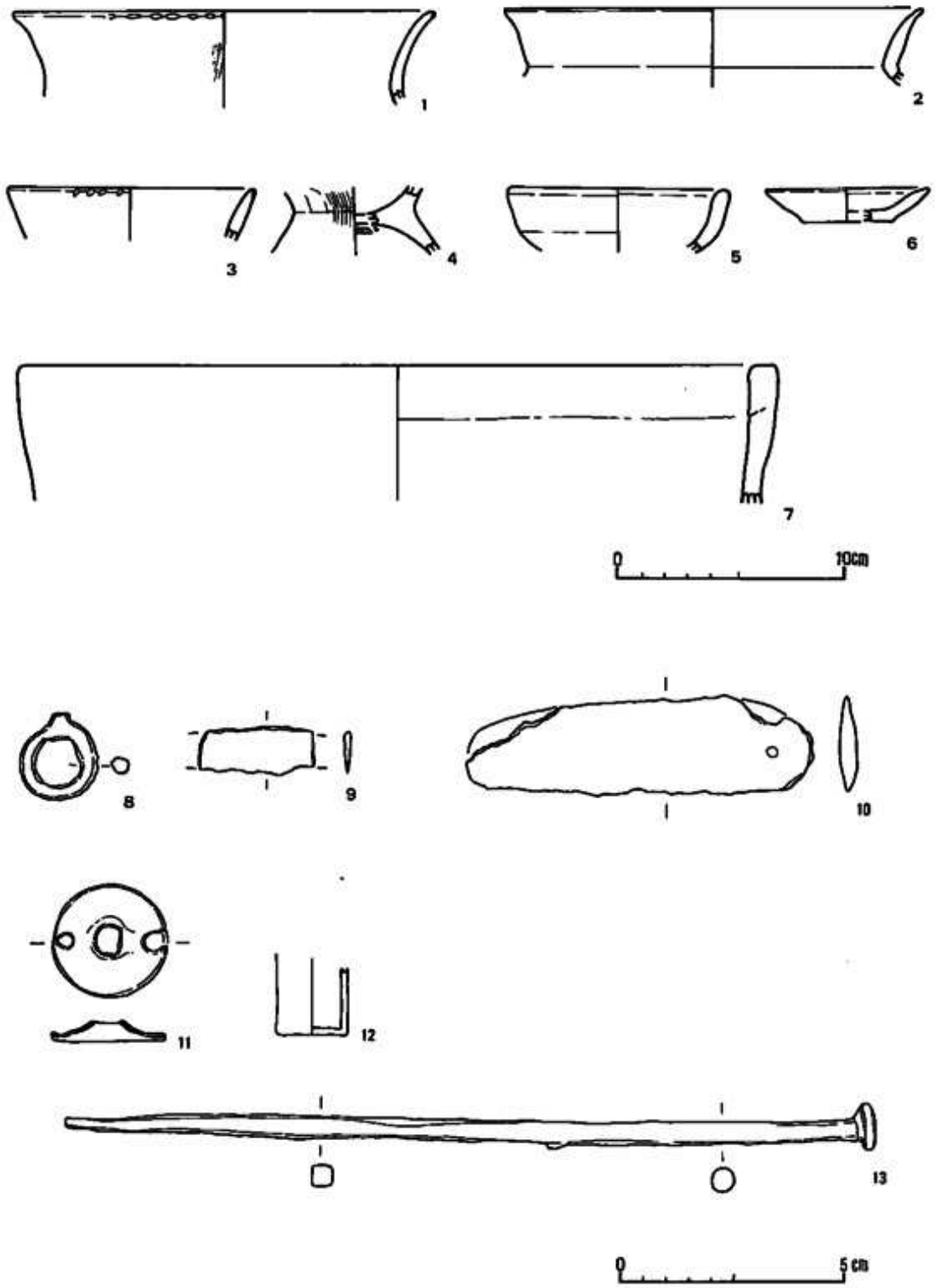
(2)　出土遺物（第6図）

①　弥生時代の甕口縁部。緩やかに外反する口縁部で、口縁直径19cm、口唇部に刻みがある。刻みの形状は摩滅が多く明らかではない。胎土は赤褐色で粒子が細かい。この土器の胎土は、甲府市東部の川田町・横根町・桜井町の粘土によって製作されたものと思われる。

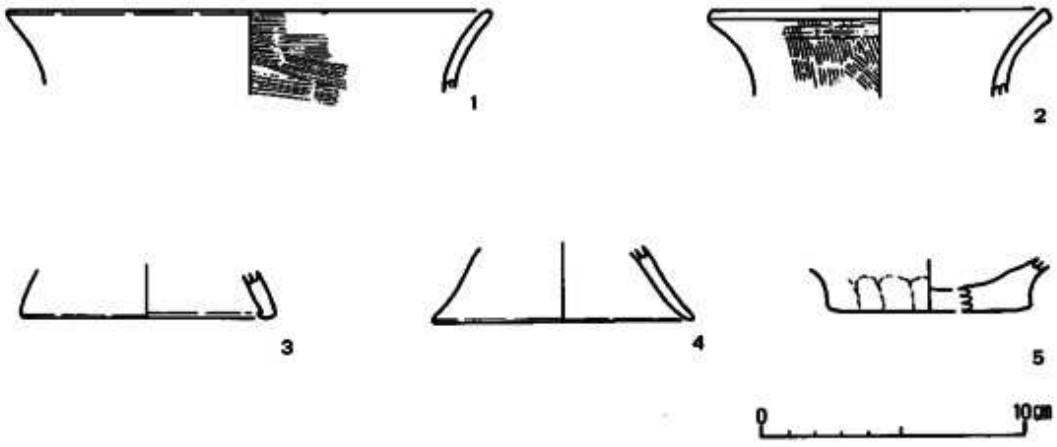
②　弥生時代かあるいは土師器甕口縁部で、口縁部直径 18.5 cm。頸部はくの字に屈曲し、口唇は少さく外反する。胎土は赤褐色で粒子は粗く、白色砂粒を多く含んでいる。

③　小型甕の口縁部か。口唇に刻みがあり、胎土はきめ細かく①の胎土に類似する。

④　台付き甕の胴部と脚部の接合部破片。外面整形痕は明らかではないが、脚部内面には刷毛目痕が見られる。甕部分内面は黒褐色をしているが、全体は褐色で白色粒子を多く含んだ粗い胎土である。



第6図　鎌弦塚出土遺物



第７図　鍋弦塚１号トレンチ出土遺物

⑤　坏形の土師質土器。胎土が粗く暗褐色を呈する。口縁部外面は横撫痕が明瞭に残る。

⑥　土師質土器の小型皿。ロクロ整形で底部は糸切り底。胎土は黄褐色、粒子は細かく緻密である。内面には酸化鉄の付着が見られるが、使用時に着いたものか不明。口径7.2㎝、器高1.5㎝である。

⑦　内耳土器口縁部。粗い胎土で雲母を多く含む。外面暗褐色で内面褐色である。

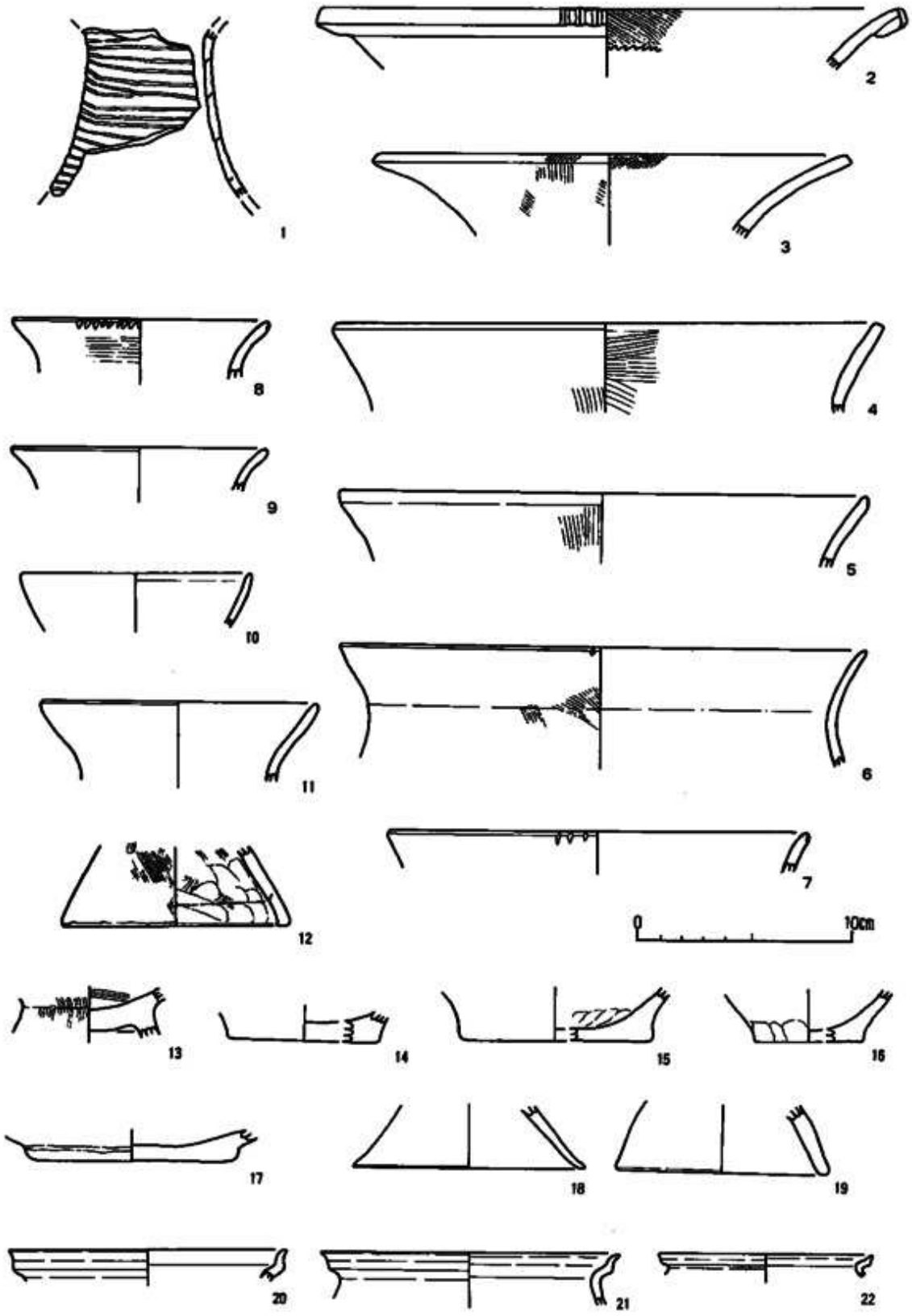
その他、墳丘及び周辺から出土した鉄製品及び銅製品・ガラス製品である。８は環状鉄製品。９は刀子か。10は不明鉄製品。11は銅製飾り金具。12はガラス小瓶。13は鉄製釘である。

（第９図）拓本としてとりあげたものに７点がある。３、４は条痕文系の土器片であり、５は壺形土器の胴部上半部破片である。櫛歯状工具による平行条線が施文されていることから弥生時代後半の土器と思われる。１、２、６、７は甕などの破片で、これらも弥生時代～古墳時代初頭の土器と思われる。

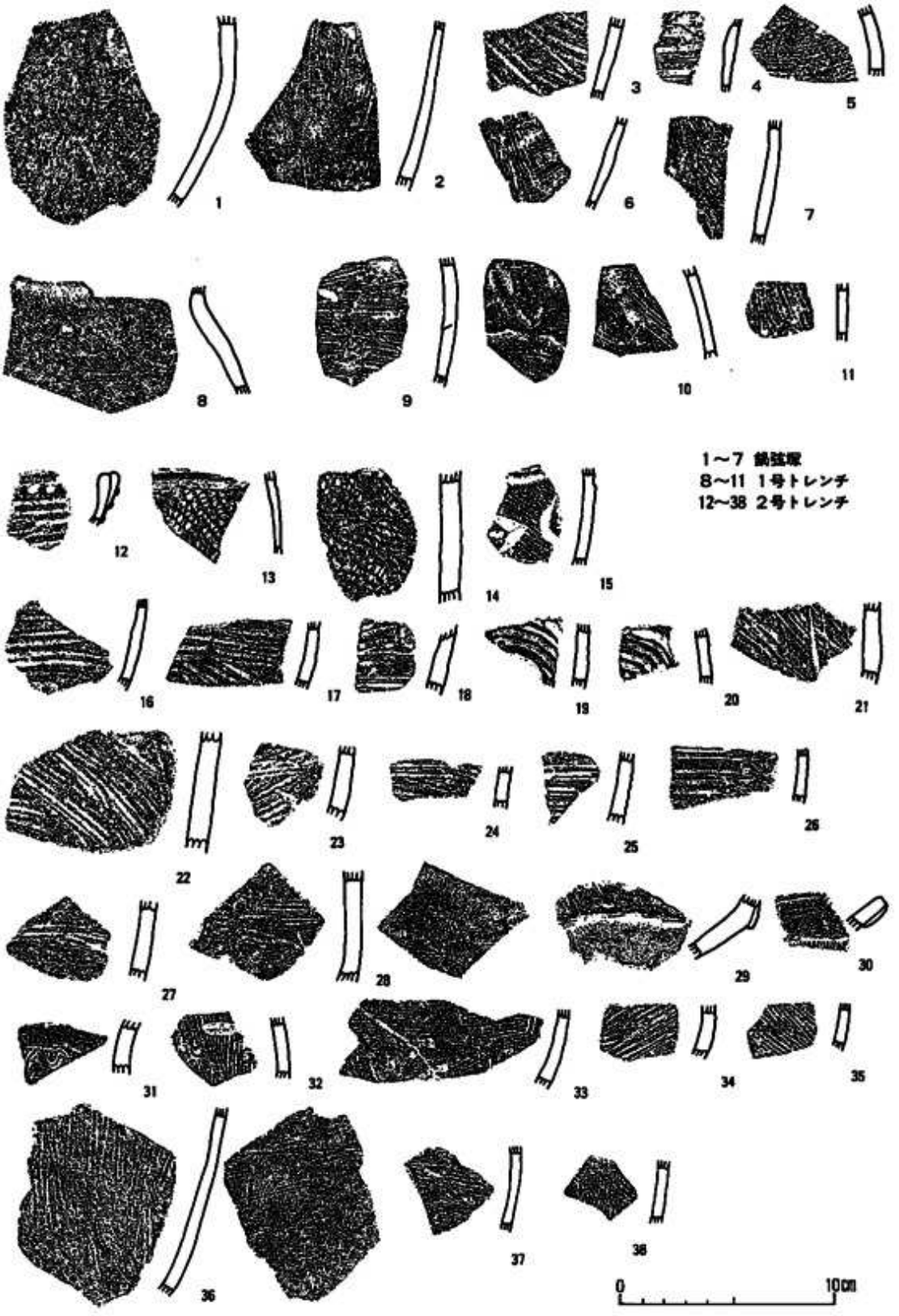
(3)　トレンチ出土遺物

１トレンチ（第７図）　１は弥生時代後期の甕形土器。胎土は黄褐色で粒子は細かく焼成も良好。外面は刷毛目整形後に篦磨きをしている。口径18.6㎝。２は弥生時代後期の甕形土器口縁部で、口径12.6㎝、暗褐色の胎土には砂粒が多くザラザラしている。３は台付き甕の脚部下端で、暗褐色を呈し、胎土は細かく焼成は良好。底径10㎝。４は高坏の脚であろうか。底径10㎝、先端は僅かに外反し、黄褐色の胎土で粒子は細かく焼成は良好。胎土に赤色粒子を含むことから、甲府市東部に生産地を推定することができる。５は壺形土器の底部。底径８㎝、胎土に白色粒子を多く含む。粒子は粗いが焼成は良好である。

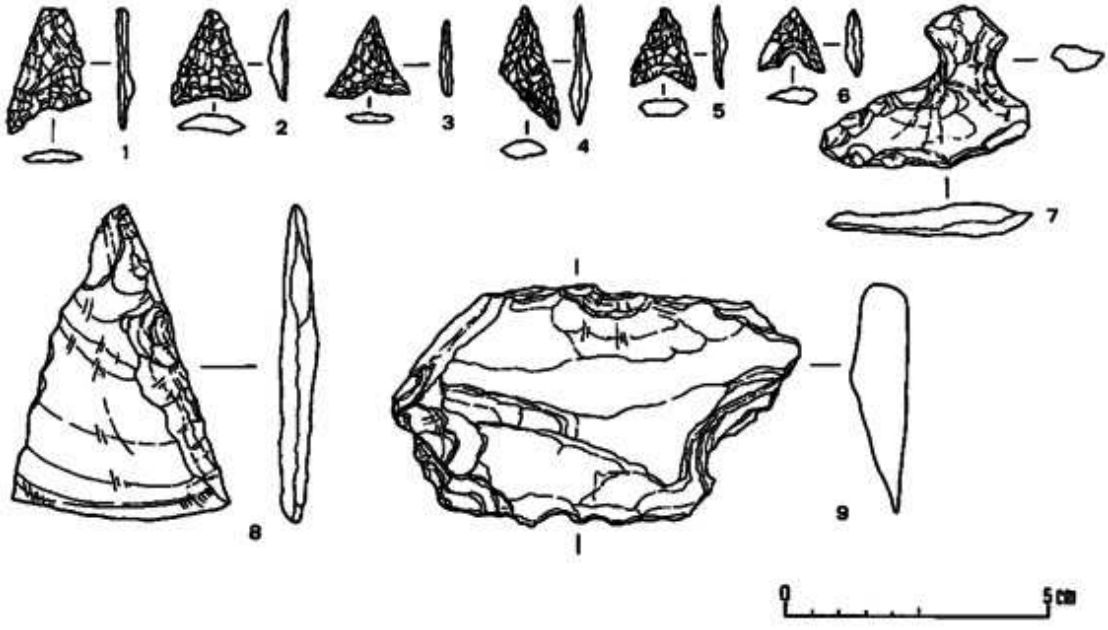
２トレンチ（第８図）　１は弥生時代中期前半の壺形土器で、頸部から胴部の肩にかけての破片である。胎土は赤褐色で粒子は細かく金雲母の砕片を多く含む。外面には幅４～５㎜の条線が横方向に施文されている。施文具の判断はつかないが、沈線の間は半截竹管の間のような蒲鉾状の隆起が見られるが、３～４本が施文具の単位である。２は壺形土器の口縁部であり口縁部先端は外側に折り返されている。口唇部には縦に３本の粘土紐の張り付けがされており、口



第８図　鍋弦塚２号トレンチ出土遺物



第9図　鍋弦塚及び1～3号トレンチ出土遺物



第10図　縄文時代石器

縁部内面には撚糸文が施されている。口唇部より約3cm内側のところに、撚糸文の結節文が口唇と平行に施されている。これより下に撚糸文があるかどうかは摩滅が進んでいて明らかではない。胎土は黄褐色で細かな白色粒子が多く含まれ、焼成は良好である。3は弥生時代後期の壺形土器口縁部で口唇先端及び内面に撚糸文が施されている。外面は刷毛目整形の後に篦磨きがされている。胎土は黄褐色で白色の細かい砂粒を多く含む。口縁部の直径は22.6cmである。4～11は甕形土器の口縁部で、6～8には口唇部に刻みが施されるものである。12・13は台付き甕の脚部である。14～16は甕の底部で、17は壺形土器の底部と考えられる。18は高坏の脚部であろうか。20～22はS字状口縁部をもつ台付き甕の口縁部をもつ台付き甕の口縁部で、S字状の屈曲がやや緩いことから、新しい時期のものと思われる。

縄文時代石器（第10図）　1～6は黒曜石製の石鏃。7は石匙で泥岩製。8は二等辺三角形の剥片を使い、鋭利な剥片の部分は加工痕が見られないが、反対側には二次加工が両面に見られる。用途不明の石器である。9は粘板岩製の剥片で、上部に二次加工が若干見られるところから、横刃型石器とみることもできよう。これらはいずれも2トレンチから出土したものである。

第4節　まとめ

本墳は、明治40年に地主らによって開墾され、中に人骨の入った陶器製の壺が発見されている。この経緯は墳頂に建てられた『東山の碑』によって明らかであるので、この全文を取り上げておく。

東山の碑

甲斐国東八代郡下曽根村の人北野覚治郎来り請うて曰く　吾が村は世々曽根氏の居りし所東山に鍋弦塚あり　伝えて云う　曽根氏の墳墓なりしと　去年四月　開墾の時偶々磁壺を発掘す　中に人骨あり　朱を以て之を包む　甲斐国志に逸見冠者清光の子曽根禅師厳尊ここに居るとあり　あるいは禅師の遺骨か曩の此所を距る北一丁余なる丸山に於て古剣古鏡を発見せりこれを坪井博士に質す　博士以て千年前貴人の墳墓となせり　これに因りて之を考ふれば　禅師の骨なるべし　茲に石を建てこれを後毘に遺さんとす　願わくばその文を撰べと余が曰く子の志し善し　而して其骨果たして禅師なるや否や未だ速かに断定すべからずと雖も　曽根一門のものたるや明れかし　今子その地を有し碑を建て其の魂を祭る敬の至りなり　地下の霊喜び知るべし　子の家子々孫々其余慶を享くるは勿論　一村の人々その余沢に潤ふや必せり　乃ちその梗概を記すること此の如し

明治四十一年十二月

正三位勲三等男爵富岡敬明題額

周防香川皋撰書

このとき出土した陶器壺及び人骨は、公園用地買収時の土地の所有者であった北野健氏より、県立考古博物館に寄贈されている。出土品についてここであらためて観察しておきたい。

壺一常滑製の壺で、三筋壺と呼ばれるものであるが、筋は肩部に2本見られ、最も張り出した肩の先端は鋭利なへら状工具で横方向に2段の削りが入る。自然釉は肩全体と胴部の一部に見られる。口縁部の形態及び肩の張りなどから14世紀前半のものと考えられる（1984　赤羽一郎　『常滑焼』考古学ライブラリー23　ニューサイエンス社）。器高23.5cm、口径10.5cm、底径8.5cmである。

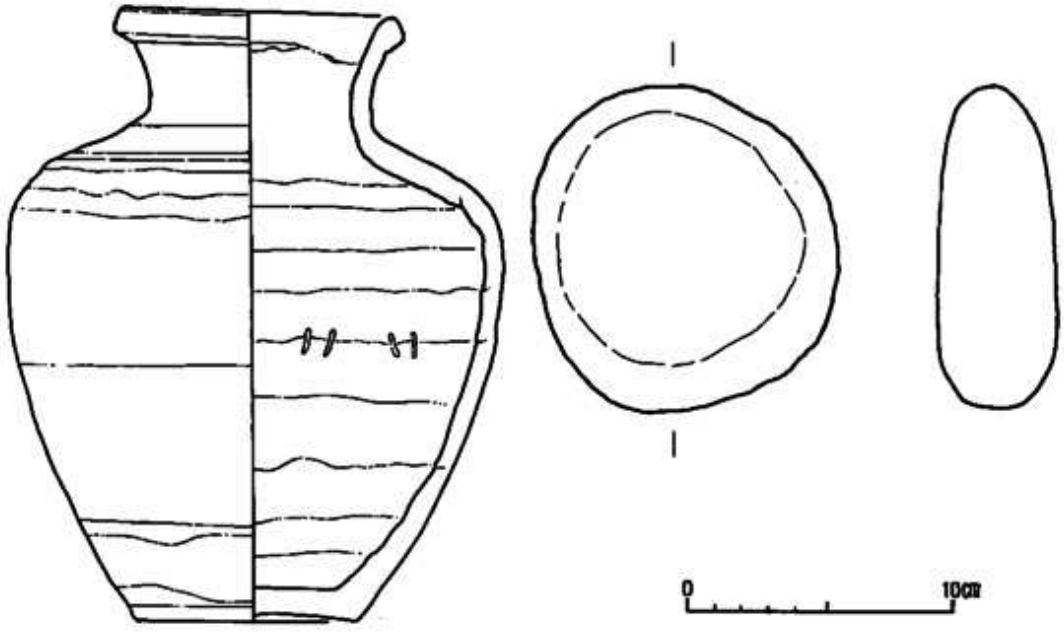
骨一中に入っていた人骨は砕片となっており各部分の形状は明らかではないが、骨は焼かれており、火葬された骨が壺に入れられていたと推定できよう。碑文には「朱で包む」とあるが、骨には朱の付着は見られず、常滑壺にも朱は検出できなかったので、発掘当時洗い流してしまったものと思われる。

石一常滑壺の蓋に使われていたと伝えられる偏平な石で、直径11～11.5cmの不正円形で、厚さ3～4cmの安山岩である。縁辺部に若干の打痕が見える。この石にも朱は残っていない。

以上のものは蔵骨器として鍋弦塚に埋納されたものであり、鍋弦塚そのものもこの蔵骨器を埋るために築いた中世墳墓と考えることができよう。発掘調査の結果では、かつて蔵骨器が

埋納されていた正確な場所を捉らえることができなかったが、明治40年に発掘された鍋弦塚は、今回調査したものと同一遺跡であるとして良い。

平担面のトレンチ調査では、縄文時代から弥生時代～古墳時代初頭の石器や土器片が出土している。しかし、それらは摩滅しており、土層の堆積状況からも遺構の存在が期待できなかった。



第11図　明治40年の出土遺物

第 II 章　東山南遺跡

第1節　地理的・歴史的環境

山梨県東八代郡中道町下向山字東山1291番地外に所在する遺跡で、遺跡の中心地は今回発掘調査地点より北東側に位置しており、1981年に県教育委員会によって発掘調査が行われ、方形周溝遺構・円形周溝遺構などが検出されている。

遺跡の立地するところは、曽根丘陵上の最高地点の標高 340.2 mの三角点より西側に位置する。周辺には6世紀末～7世紀初頭に築造された稲荷塚古墳を始め、縄文時代～弥生時代・古墳時代初頭の上の平遺跡などがある。地域内部でこの遺跡が果たした役割については、今回の調査で遺構が発見できなかった為に、言及することはできない。

第2節　発掘調査経過

発掘調査の目的

甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園の駐車場及び管理・工事用道路建設に先立つ調査。

発掘調査日程

1988. 12. 28　教文12―81号で発掘通知提出

1989. 1. 10　発掘調査開始

1. 30　発掘調査終了

発掘調査組織

発掘調査担当者　末木　健　山梨県埋蔵文化財センター　副主査・文化財主事

作業員　矢崎悦子　出月満寿江　矢崎ます子　長田和子　斉藤多喜子　小林敬子　土屋ふじ子　米山八重子　宇野文子　山口清子　中沢美智子　宇野和子　江川勝子　斉藤つね子

調査方法

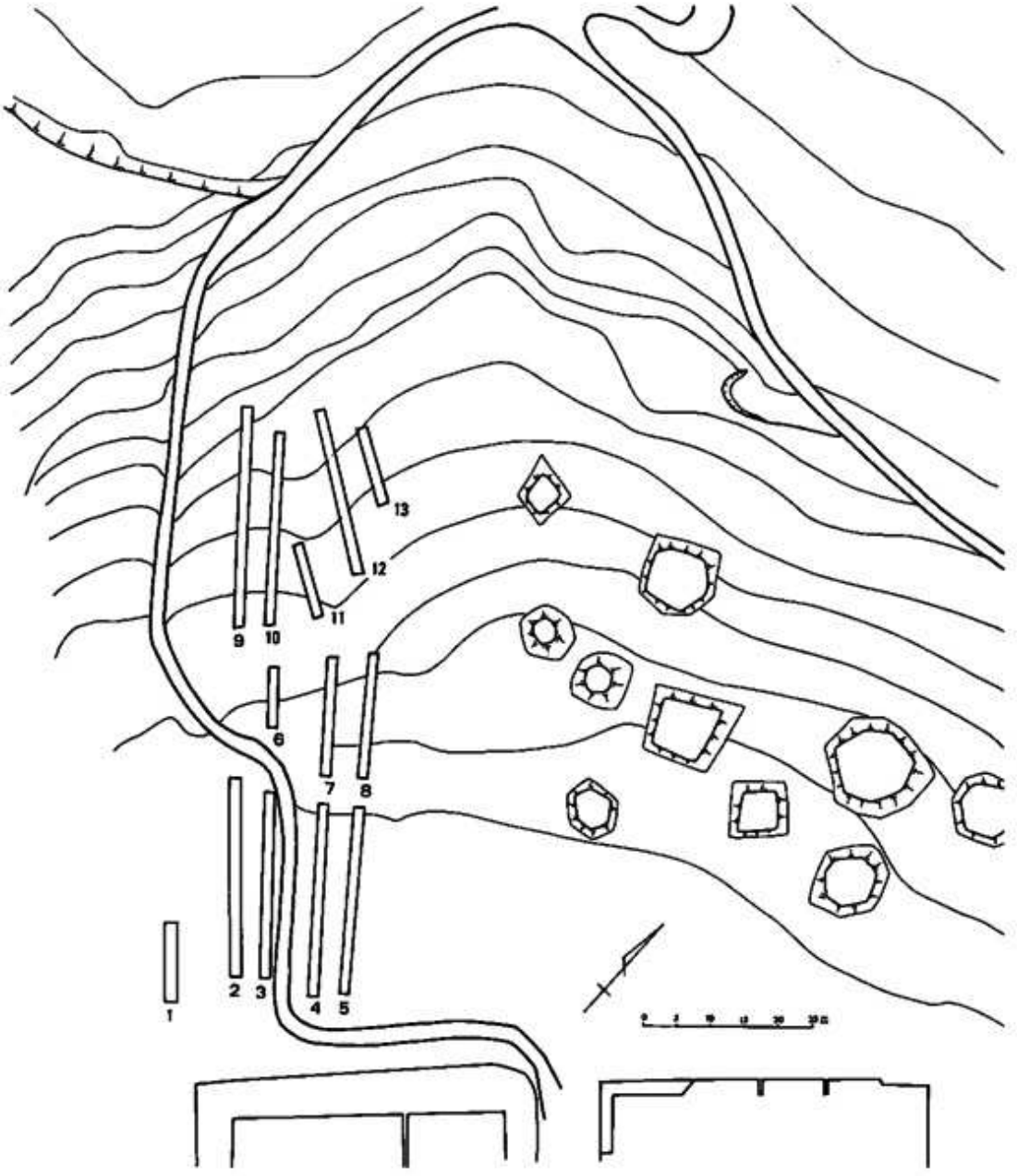
対象地域の中に任意に13本のトレンチを設定し、人力で表土を除去した。遺構・遺物共に検出できなかった。

第3節　遺跡の概要

前述したように、遺跡がこの地区では発見できなかった。方形周溝遺構・円形周溝遺構などの分布は、北斜面には分布しているだけで、西斜面には分布しないようである。遺物も近・現代の陶磁器類の破片と土師質土器片が若干散布していた。

第4節　まとめ

公園建設に先立って東山南遺跡の発掘調査をしたが、遺跡はここまで広がっていないことが明らかとなった。しかし、遺跡中心部は勿論、遺跡北側には稲荷塚古墳があるので、周辺の工事を行う場合には、景観上も影響が少ないように配慮が望まれよう。



第12図　東山南遺跡調査区全体図

第Ⅲ章　結　　語

鍋弦塚古墳とされていた墳丘は、中世の墳墓である可能性が高い。また、鍋弦塚のある台地上には土器・石器分布が認められるものの、遺構は明らかではなかった。更に、東山南遺跡西側の地域が遺跡から外れていることが、今回の発掘調査で確認された。

公園整備にあたっては、この成果を十分に理解したうえで、工事計画に生かしてもらいたい。

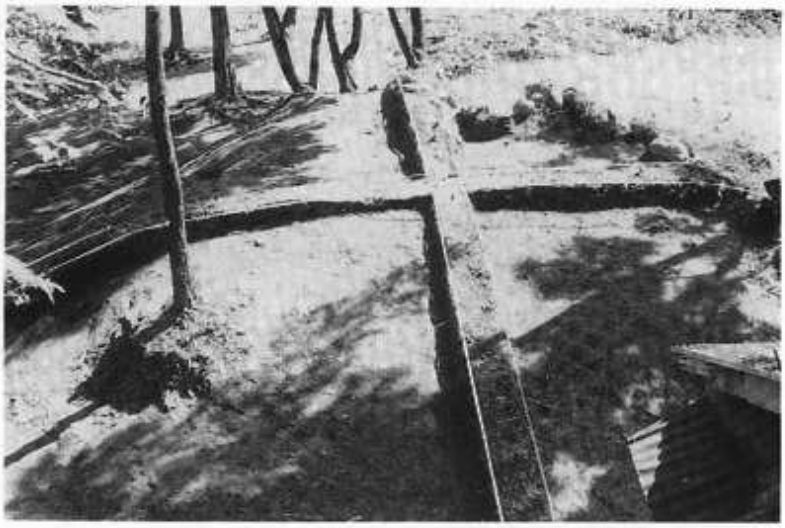
なお、調査に参加された方々をはじめ、石和土木事務所、中道町教育委員会にはご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

鍋弦塚
発掘調査前

鍋弦塚
調査風景

鍋弦塚
墳丘上の石碑

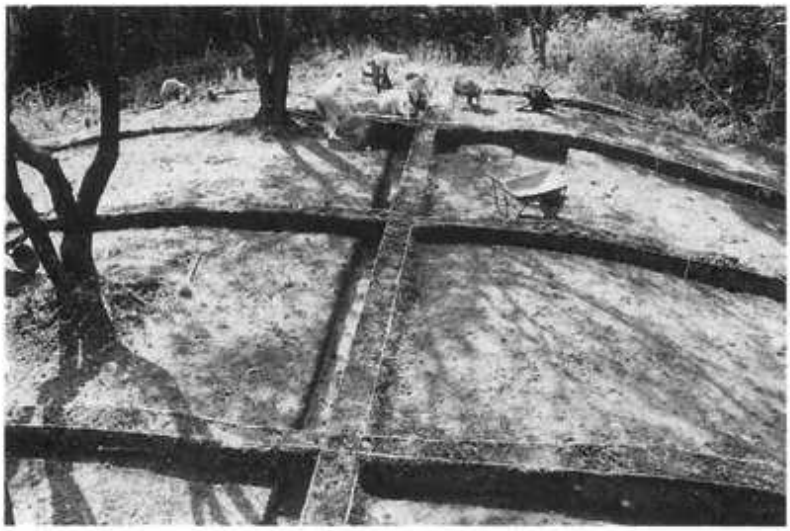
図版2



鍋弦塚
表土除去状態

同　上

鍋弦塚
墳頂土坑

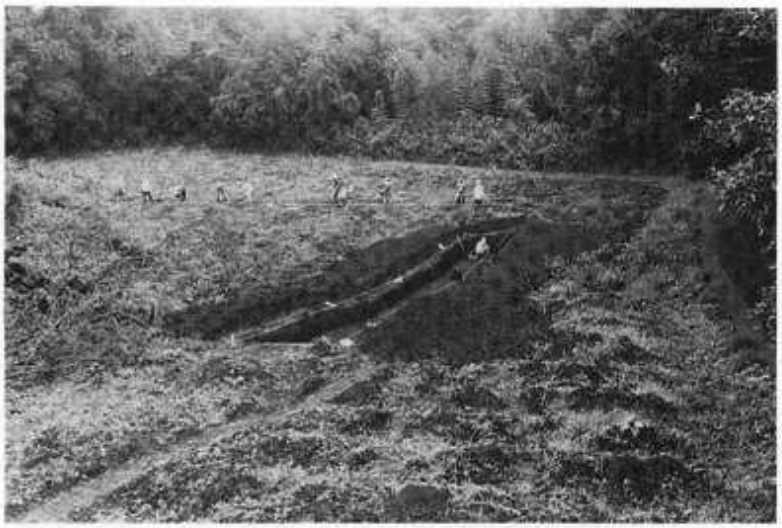


鍋弦塚
西側トレンチ

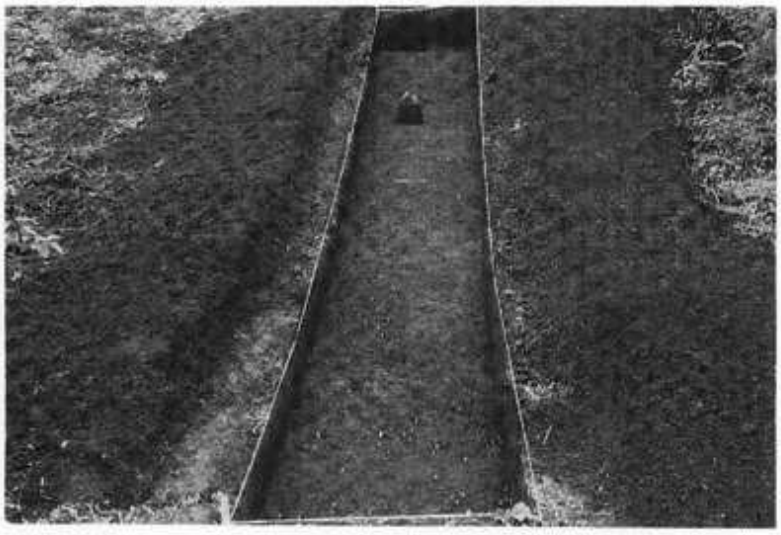
同　上

同上部
土　坑

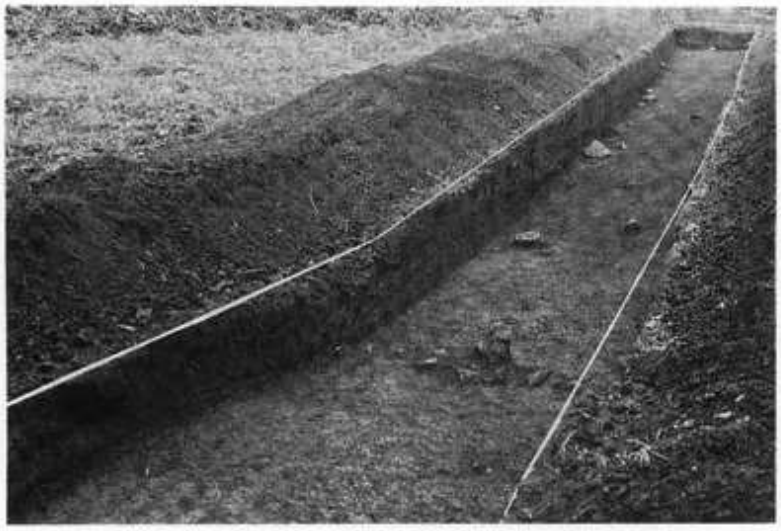
図版4



鍋　弦　塚
トレンチ設定状況

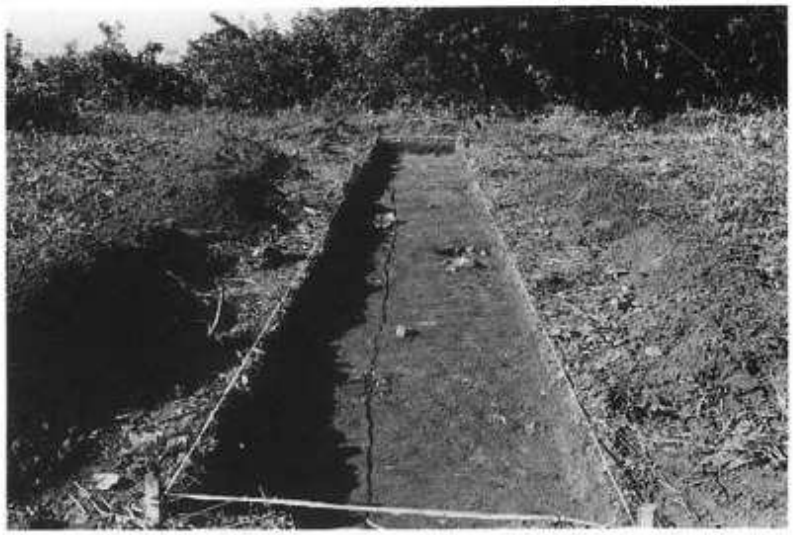


同　　上
1号トレンチ



同　　上
2号トレンチ

鍋弦塚
3号トレンチ
調査状況

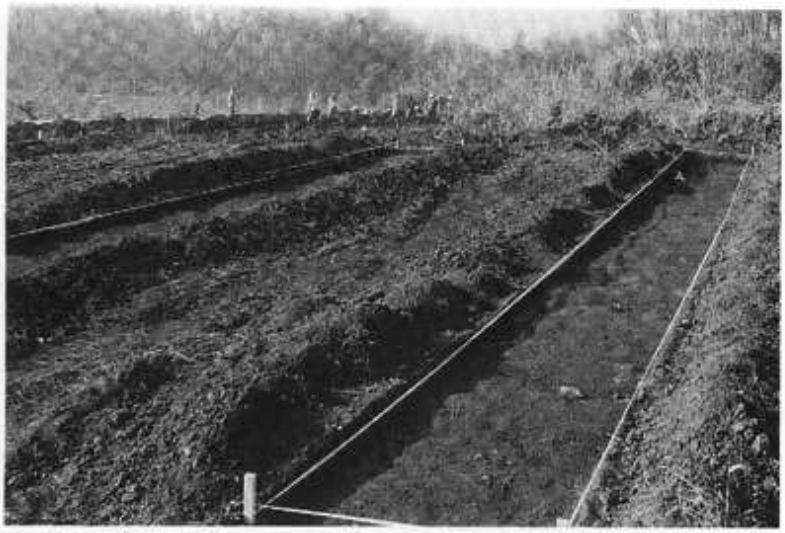


同　上
3号トレンチ

同　上
集石遺構

図版6

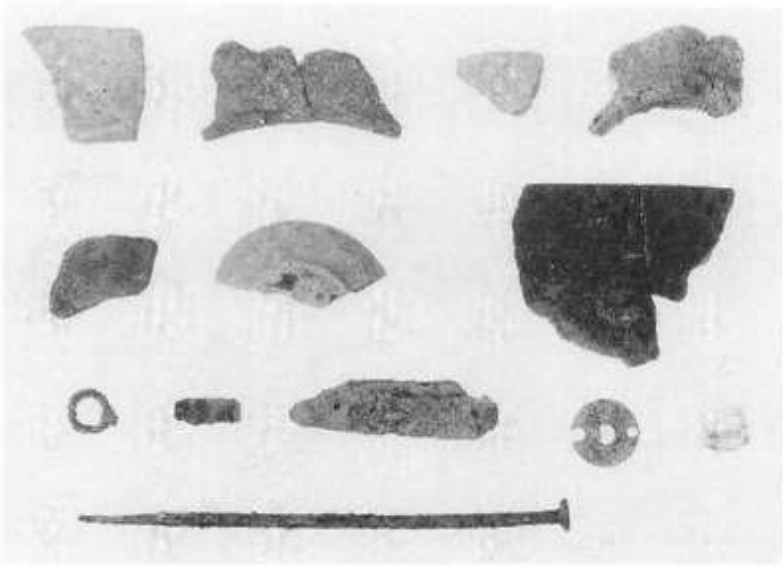
東山南遺跡
調査風景



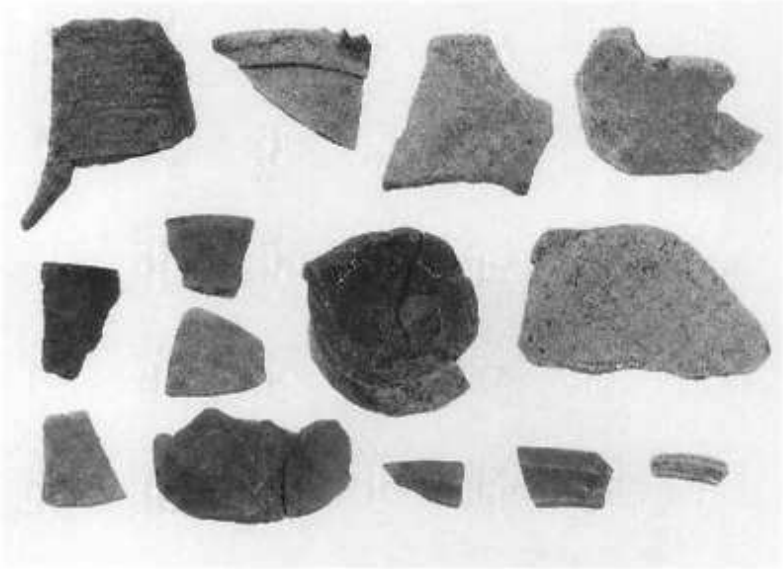
同　　上

同　　上

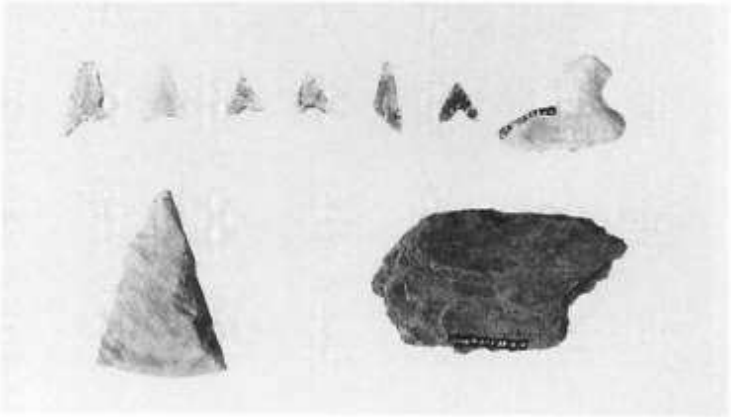
鍋弦塚出土遺物



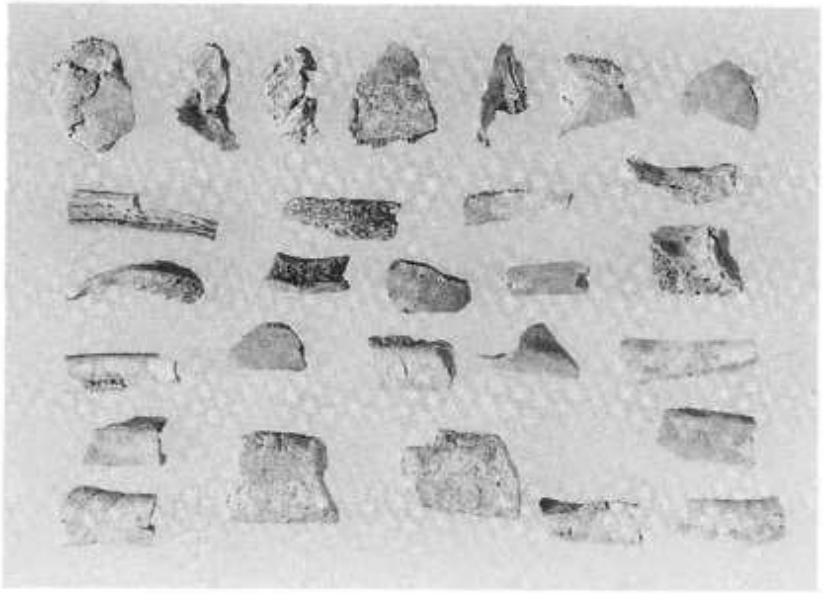
2号トレンチ出土遺物



石　　器



図版8



蔵骨器中の人骨
（一部）

明治40年出土
常滑製蔵骨器

山梨県埋蔵文化財センター調査報告　第49集

鍋弦塚・東山南遺跡
NABEDURUDUKA・HIGASIYAMAMINAMI SITE

平成元年3月25日　印刷
平成元年3月31日　発行

編集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL　0552－66－3881
発行　山梨県教育委員会
印刷　（有）新星堂印刷